

阿賀川

A G A G A W A R I V E R

事業概要



国土交通省 北陸地方整備局
阿賀川河川事務所

写真：黄金の阿賀川

清流と大河に豊かさの源を求めて…



秋・落葉の流れ

河川整備事業 安全な河川を目指して

- 2 ◎下流狭窄部改修事業
- 2 ◎弱小堤防改修事業
- 3 ◎大川ダムの役割
- 3 ◎身神川排水機場の役割

環境整備事業 きれいな阿賀川、誇れる阿賀川

- 4 ◎阿賀川の環境について〈水質の傾向・生物(阿賀川で確認できる貴重な生物種)〉
- 5 ◎環境に配慮した工法
- 5 ◎湯川放水路水環境整備事業

地域支援活動 河川を身近に感じよう

- 6 ◎水辺の楽校
- 6 ◎地域との連携〈会津めだか塾・川の達人の会〉
- 7 ◎河川資源の有効利用〈刈草、木炭、流木チップ〉
- 7 ◎TOPICS

Agagawa River

流域の概要

栃木県と福島県の県境に位置する荒海山に源を発する阿賀川(新潟に入ると阿賀野川)は、川の幸を育みながら南会津から大川ダムを経て会津盆地に流れ込みます。「大川」として地域住民から愛され、頼られ、時には恐れられながらも、人々の暮らしと密接につながり多くの恵みをもたらしています。やがて盆地を抜け出ようとする会津西部で、天を映す鏡と呼ばれる猪苗代湖から流下した日橋川と、天空の秘境尾瀬沼より流れ出た雄大な只見川と合流し、流量を増しながら山間部の渓谷を縫うように西を目指します。その昔、会津地方への塩や海産物は日本海から阿賀川を船で運ばれてきました。当時も、新潟との県境に横たわるこの渓谷は難所でしたが、阿賀川は会津にとってなくてはならぬ命の道だったのです。新潟県に抜けた阿賀野川は新潟平野を悠然と横断し、やがて日本海へと注ぎ込みます。



日橋川の五月鯉

Agagawa River

阿賀川の名称

阿賀野川の上流部の名称である阿賀川の阿賀とは、仏教用語『閻伽』(アカ、水の意味)が変化したもので、水量の豊富なことを意味すると言説があります。



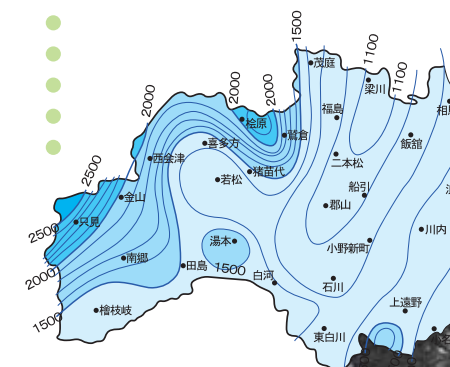
紅葉路を走る

Agagawa River

流域の地勢と気候

上流部に見られる流域界は、標高1,000m~2,000mの奥羽山脈、越後山脈よりなり、東西南北にそれぞれ阿武隈川、信濃川、利根川、最上川と分水嶺を共有します。また、流域の85~90%は山地で構成され、その地質は主に花崗岩、安山岩、石英安山岩、第3紀層からなっています。

阿賀野川の流域の気候は大きく3つのタイプに分類され、平野部(新潟平野)は多雨多雪で典型的な日本海気候を、また、会津地方は小雨多雪で内陸性と北陸特有気候の混合型気候を呈しています。流域内の年平均降雨量は、上流部で約1,700mm、下流部で2,100mmです。



年間降水量分布図
福島地方気象台編「福島県の気候」より



冬の阿賀川

Agagawa River

流域の人口

福島県に定める会津地方の人口割合は、約15%ですが、面積割合は約39%にも及びます。深い緑と豊かな水に見守られた風情のある地域といえるでしょう。



元気におよげ

河川整備事業

安全な河川を目指して

阿賀川河川事務所では、沿川にお住まいの皆様が安心して生活できるよう、河川整備事業を進めています。

〔下流狭窄部改修事業〕

古来から会津盆地では、たびたび洪水が繰り返されてきました。第二次世界大戦前、原因の一つとして挙げられていた、会津西部に位置する阿賀川下流の蛇行部に3本の捷水路（ショートカット）を開削しましたが、大量の未掘削部を残したままの暫定通水でした。昭和57年9月、会津は戦後最大の出水に見舞われました。これを機に昭和58年から待望の阿賀川下流狭窄部改修事業が再開されたのです。改修区域を3地区に分け、最初に治水効果の高い「泡の巻」に着手し、平成10年11月に完成しました。その後上流から「津尻」に着手し、現在、段階的に掘削を進めています。



1982
（昭和57年5月）
改修前



1998
（平成10年11月）
完成

完成した泡の巻地区



喜多方市

会津坂下町

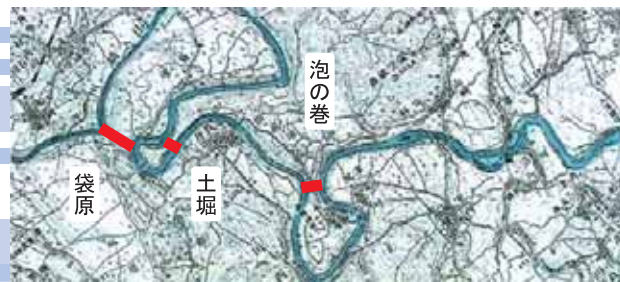
阿賀川

津尻掘削

泡の巻橋

泡の巻地区

平成10年度完成



大正2年当時の河道



泡の巻、土堀、袋原地区の空中写真



山崎新湖

慶長16(1611)年に、現在の喜多方市山崎地先で大地震により山崩れが発生し、完全に阿賀川を堰き止めてしまい、その時にできた湖を「山崎新湖」と呼んでいます。水没した村は12村あったと記録されています。

その後、水抜きのための水路工事も行っていたようですが、大洪水が度々発生するなど、50年くらいは湖が存在していたとされています。

〔大川ダムの役割〕

昭和31年、昭和33年に阿賀川にて大規模な洪水が発生し、会津盆地は多大な被害を受けたため、阿賀野川水系の治水計画について再検討されました。その検討に基づき、大川ダムの建設が計画され、昭和48年度より建設に着手し、昭和62年度に竣工しました。

大川ダムの役割

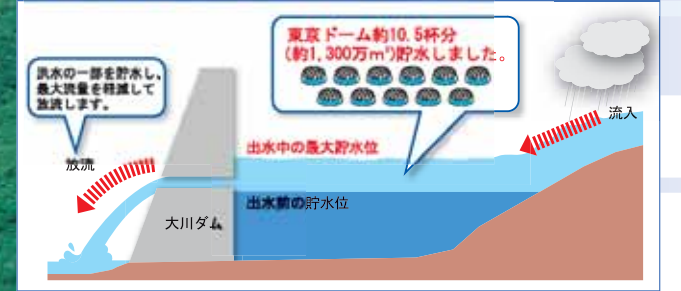
1. 洪水調節
2. 流水の正常な機能の維持
3. かんがい用水の供給
4. 水道用水の供給
5. 工業用水の供給
6. ダム式発電
7. 揚水式発電

洪水調節

ダムの上流で発生した洪水流量の一部を貯留して、下流の水位を抑えます。平成14年10月の台風21号では、東京ドーム10.5杯分(1,300万 m^3)の貯水をしました。その結果、下流河川の水位を下げ、危険水位の超過を未然に防ぎました。



平成14年台風21号における大川ダムの効果

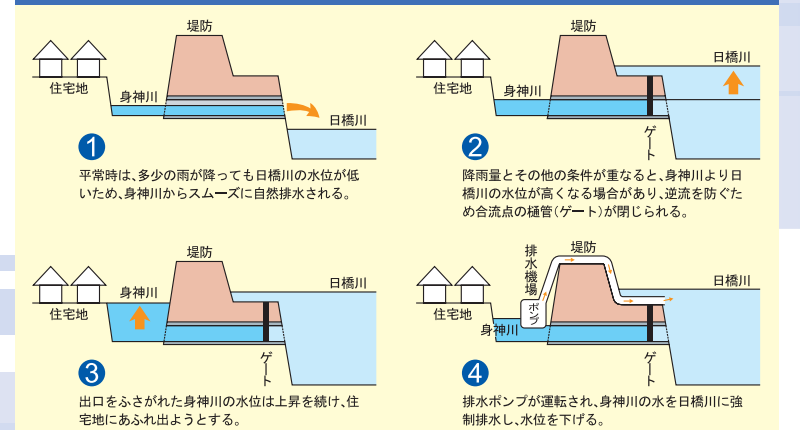


〔身神川排水機場の役割〕

喜多方市塩川町の中心部の身神川流域は、昔から低平地で、大雨のときには日橋川の水位が上昇すると、この支川に流れ込んだ雨水が、自然排水されないため、居住地内にあふれ出し、多くの被害をもたらしました。この内水被害を防止もしくは軽減する目的で建設されたのが、この身神川排水機場です。本来の役割である排水機能のほかに、ご家族でも楽しめるスペースや、喜多方市塩川町の物産を展示販売するコーナーなど、一般にも開放された多目的施設となっています。



排水のメカニズム



阿賀川河川事務所では、阿賀川の魅力を最大限に感じていただけるよう、環境整備事業を進めております。

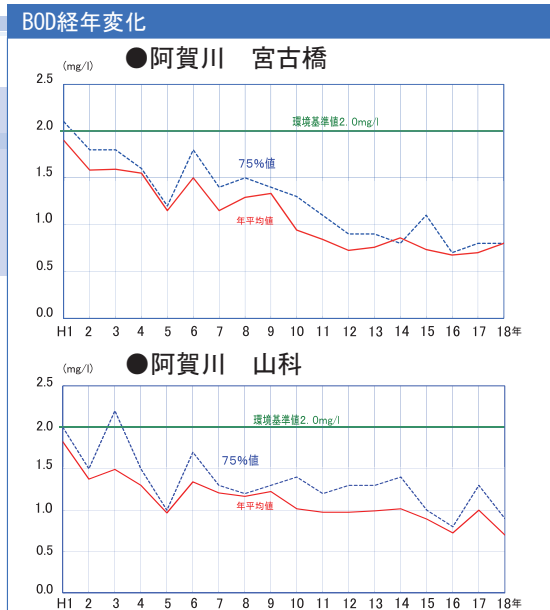
環境整備事業

きれいな阿賀川、誇れる阿賀川

【水質の傾向】

水質をチェックする数値の一つにBOD(生物化学的酸素要求量)という項目があります。このグラフは、阿賀川の2地点で測定したものです。年平均値についてはいずれも環境基準値を下回り、好ましい傾向にあることが分かります。

※75%値とは?
75%値とは、例えば100個のデータを小さい順に並べたときの第75番目のものです。75%値が環境基準値以下の場合に、環境基準に適合していると評価します。



【生 物】

(阿賀川で確認できる貴重な生物種)

■陸封型イトヨ

通称「トゲチヨ」。オスは産卵前に巣を作り、孵化後も稚魚の世話をします。巣から離れた稚魚を口に入れ、巣に戻す習性がある。



■オオムラサキ

日本の国蝶。幼虫はエノキやエゾエノキの根元で越冬する。成虫になるとクヌギなどの樹液を吸う。



■ウケクチウグイ

下顎が上顎よりも突き出ているところからこの名前が付いた。生存が危ぶまれる貴重種で、生態も解明されていない。



■ミクリ

池や小川の浅い水中に群生する多年草。ヤンマ類の幼虫や両生類に生息の場を提供している。



■アユ

鮎、香魚、年魚とも書く。本来幼魚は海に下り、春に再び川を上る習性があった。阿賀川のアユ釣りは、夏の風物詩である。



■オキナグサ

白い毛が白髪の翁に似ていることからの命名。早春に釣り鐘状の紫色の花が咲く多年草。



【環境に配慮した工法】

阿賀川河川事務所では、阿賀川流域に生息する生物など周辺の自然環境に配慮した工法を用いて、河川改修を行っています。

■木工沈床

魚類の産卵場所及び出水時の逃げ場等を確保するため、護岸の根固工に木工沈床を広く採用しています。



■中聖牛

木と石で作られた聖牛。洪水の流れを受け止め、河岸等を防護するなどの効果があります。天然素材を利用した伝統的な工法です。



■ポーラスコンクリート

護岸ブロック間にすきまがあり、そのすきまから植物が自生し、小動物等の繁殖場を提供します。



■玉石粗朶工

木と石で作られた護岸。粗朶(細長い落葉樹の枝)を編み、マット状にして河岸を覆い、この上に玉石を詰め込んだもの。天然素材を利用した伝統的な工法です。



【湯川放水路水環境整備事業】

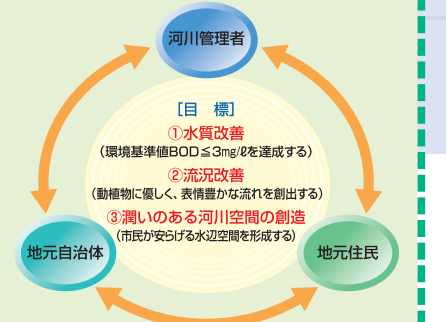
この事業は、汚い水の流入や川の水が少ないため水環境が悪化している湯川の水環境を改善し、鳥や魚などの生物が住みやすく、かつ、子供たちが湯川で安全に遊べるような川づくりを目指すものです。川の水環境をよりよくするために、阿賀川河川事務所をはじめ、湯川に関わりの深い人たちや住民の皆様と一緒に取り組んでいる事業です。



清流ルネッサンス(監)

21世紀を迎え、川を管理する国土交通省は、できるだけ早くに環境を改善する必要がある川や湖を対象に、「第二期水環境改善緊急行動計画(清流ルネッサンス(監))」を作って、地元自治体や地元住民の方々と一緒に事業に取り組んでいます。これは、汚れてしまった川に清らかな流れを取り戻すことを目的としています。

これまで新湯川では、水環境を改善するための様々な活動や話し合いを行ってきました。このような活動が評価され、新湯川(湯川放水路)がこの計画の対象河川の1つに選ばれています。



阿賀川河川事務所では、地域の皆様に河川を身近に感じていただけるよう、様々な事業に取り組んでいます。

地域支援活動

河川を身近に感じよう

[水辺の楽校]

■会津若松市水辺の楽校

会津若松市水辺の楽校は、阿賀川の自然を活かしながら、水辺に近づける河岸やイトヨ観察池などが整備された、子供たちが「川に学び、川で遊ぶ」ことができる自然とのふれあいの場です。



陸封型イトヨの「すみか」を作りました。イトヨの他にも昆虫・水辺の植物が観察できます。

■会津ほんごう水辺の楽校

多くの子供たちが水辺で安全に遊び、学び、自然体験ができるよう、水辺の楽校として整備されました。



せせらぎ水路の中には、阿賀川に生息するカジカ、アカザ、ヨシノボリ、ウグイ、アブラハヤなどの魚がいます。観察したり、触れてみたり、川遊びができます。

[地域との連携]

会津めだか塾

川とふれあう手法を伝えることができる体験者を育成することを目指して、阿賀川河川事務所では平成10年度から毎年度、「会津めだか塾」を開校しています。

川の達人の会

平成11年度より、会津メダカ塾の卒業生を中心に「阿賀川・川の達人の会」を発足。習得した技術により、川とのつきあい方を伝えていきます。

トゲチヨ会津ネットワーク

清流のシンボルであるトゲチヨ（イトヨ）の保全に取り組むことにより、健全な水環境を保全し後世に継承していくことを目的に平成18年10月に発足。水環境やトゲチヨに関する調査活動、学習会への支援を行っています。

総合的な学習の支援

文部科学省において、平成14年度からの新学習指導要領に基づき「総合的な学習」の時間が創設されました。子供たちが「自らの課題を見つけ、学び、考え、主体的に問題を解決する力を育む」ことを目指す時間とされています。阿賀川河川事務所では、より川に触れてもらうために、阿賀川流域での学習の場を市民団体等と協力し、提供しています。



[河川資源の有効利用]

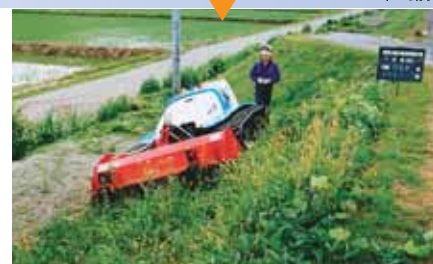
阿賀川では、災害時等に危険が生じないように、常に河川の管理を行っています。その際に発生する、刈草・伐採木・流木に少し手を加えてやり、河川資源として再利用しています。こうした河川資源については、地域の皆様へ提供しています。

■刈草

阿賀川河川事務所では河川管理上支障とならないように、年2回堤防の除草を行います。ラジコン草刈機を使用して除草を行い、発生した刈草を運搬しやすい形状に束ねて、地域の方へ提供しています。



草刈前



大型ラジコン草刈機



梱包後

■伐採木

阿賀川は、他の河川と比べ河道内の樹木の量が多いという特徴があります。河道内の過剰な樹木は、洪水時に流下の障害となり、川筋を蛇行させ、その結果堤防を決壊させる恐れがあります。阿賀川河川事務所では、流下の障害となる樹木を伐採し、炭焼き窯（愛称「木炭庵」）にて炭にし、地域の方へ提供しています。



蛇行した川筋(洪水時)



木炭庵



出来上がり

■流木

大川ダムには、台風等による出水や融雪出水後、大量の流木が漂着します。以前まではそれらをゴミとして焼却していましたが、木材破砕機により流木を破砕し、チップにすることで、畑や家庭菜園の肥料として、またマルチング材として、地域の方へ提供しています。



ダム湖に漂着



木材破砕機に



出来上がり

TOPICS

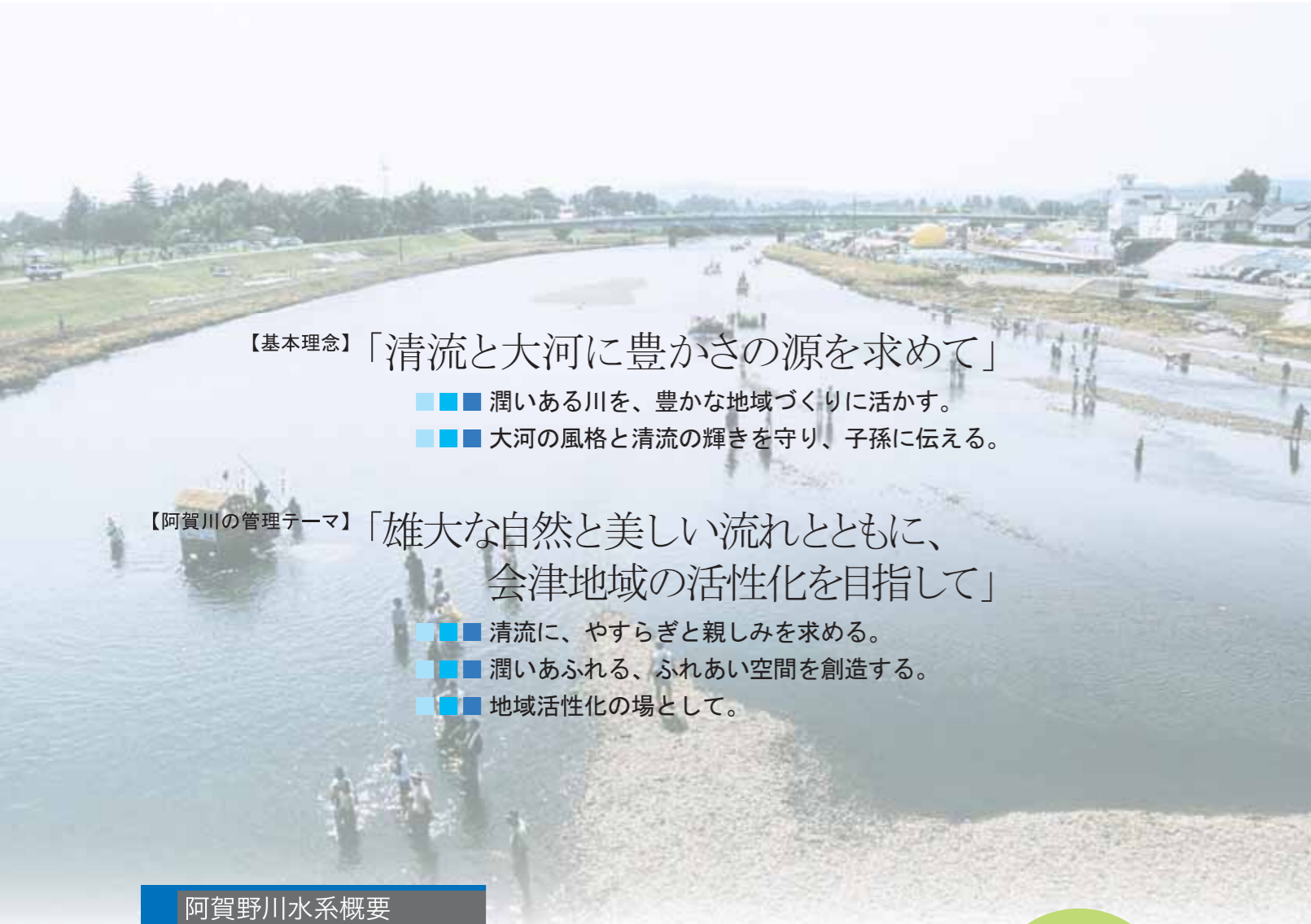
阿賀川には約120の市民団体がおり、河川環境保全や総合学習支援など多岐にわたる活動を行っています。

事例1 湯川の清流復活大作戦 湯川の水環境を考える市民の会

湯川の清流復活大作戦は湯川におけるゴミの問題への対策や子供たちへの環境教育の一環として、ゴミ分布調査とゴミ拾いが実施されました。ゴミ分布調査結果は『湯川ゴミマップ』としてとりまとめています。

事例2 総合学習支援活動 阿賀川・川の達人の会

会津地方を中心とする小学校を対象として、年間10回を超える総合学習支援活動を実施しています。子供たちが川を教材として学習する場を、阿賀川流域で提供すべく、ボランティア団体である「阿賀川・川の達人の会」と協力し、活動しています。



【基本理念】「清流と大河に豊かさの源を求めて」

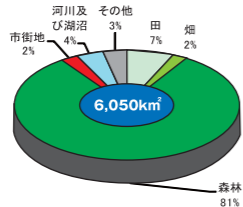
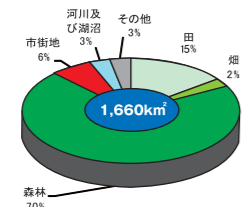
- ■ ■ 潤いある川を、豊かな地域づくりに活かす。
- ■ ■ 大河の風格と清流の輝きを守り、子孫に伝える。

【阿賀川の管理テーマ】「雄大な自然と美しい流れとともに、
会津地域の活性化を目指して」

- ■ ■ 清流に、やすらぎと親しみを求める。
- ■ ■ 潤いあふれる、ふれあい空間を創造する。
- ■ ■ 地域活性化の場として。

阿賀野川水系概要

水源および標高	福島県南会津町 荒海山 1,580m	
	新潟県側 (阿賀野川)	福島県側 (阿賀川)
流域面積	7,710km ² (全国8位)	6,050km ²
流路延長	本川 83km 支川早出川 27km	本川 127km 支川只見川 145km 支川日橋川 25km 支川湯川 28km
大臣管理区間	河川:本川 34.6km 支川早出川 4.6km	河川:本川 31.6km 支川日橋川 6.6km 支川湯川 2.2km ダム:本川 11.55km



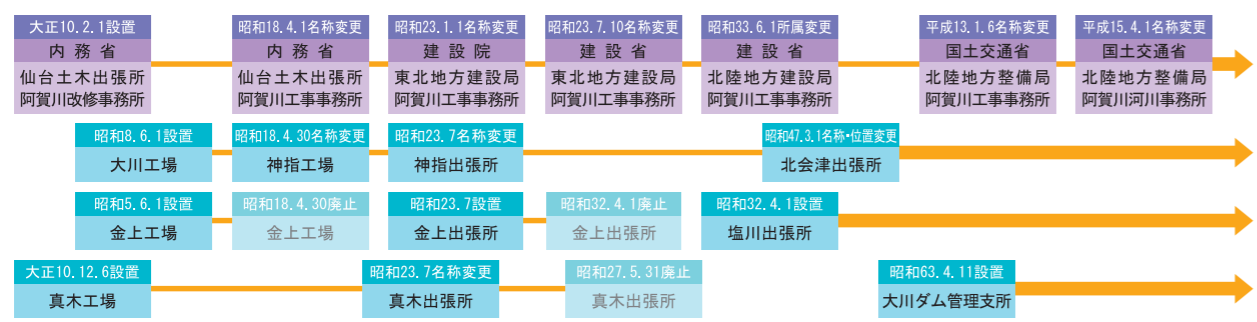
阿賀川河川事務所ホームページ
<http://www.hrr.mlit.go.jp/agagawa/>



阿賀川河川事務所では、地域に根ざした川づくりを目指し、もっと川を身近に感じていただくための情報発信として、インターネット上にホームページを開設しています。ぜひご覧になって、みなさまのご意見やご感想をお寄せください。



事務所の沿革



福島県会津若松市立川東中学校 第三学年(当時) 鈴木 陽花さんの作品
 (平成十七年度河川愛護月間推進ポスター 優秀賞受賞作品)



■河川に関するお問い合わせは■

阿賀川河川事務所 地域活性化・国際交流相談窓口(工務課内)

〒965-8567 会津若松市表町2-70 TEL 0242-26-6441
 ホームページ TEL 0242-27-3755(河川情報サービス)
<http://www.hrr.mlit.go.jp/agagawa/> FAX 0242-29-2776

北会津出張所

〒969-6184 会津若松市北会津町三本松2982 TEL 024 2-56-2315
 FAX 024 2-56-2319

塩川出張所

〒969-3524 喜多方市塩川町字館ノ内929 TEL 024 1-27-2168
 FAX 024 1-27-2169

大川ダム管理支所

〒969-5133 会津若松市大戸町大字大川字季平乙121 TEL 024 2-92-2839
 FAX 024 2-92-3313